TEKU-TEKU2019 行田足袋蔵めぐりまちあるき活動記録

企画名■TEKU-TEKU とまちめぐり（埼玉住まい・まちづくり交流展 2019@行田）

日時■2019 年４月 21 日（日）10：00～12：30

企画概要■行田は、かつて全国シェアの８割の足袋を生産したまちであり、中心街には往時の繁栄を伝える足袋蔵などの近代産業遺産が数多く残されている。こうした足袋蔵等の再生、活用を中心となって取り組む「ＮＰＯぎょうだ足袋蔵ネットワーク」は 2005 年から毎年、開かれた蔵や建物を巡る「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」を開催している。

まちを見て歩いて評価するグループ TEKU-TEKU も、過去６回、ぎょうだまちあるきを企画し、一歩一歩着実に活用が進む足袋蔵のまち行田の「定点観測」をさせていただいている。

今回は、埼玉住まい・まちづくり交流展 2019@行田を主催する建築学会埼玉支所と TEKU-TEKU との共催で今年の「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」に参加した。初参加者は朽木氏の案内で、既に何回か行田のまちを歩いている参加者は各自で、開かれた蔵をめぐり、まちやイベントへの評価と今後の行田のまちづくりへの提案、アイデアなどを出し合った。

2019 蔵めぐりの対象の蔵■足袋蔵まちづくりミュージアム、忠次郎蔵、牧禎舎、時田足袋蔵、足袋とくらしの博物館、着物の仕立て屋、武蔵野銀行行田支店、田代蔵、足袋蔵ギャラリー門パン工房ＫＵＲＡ，大澤蔵、松坂屋蔵、あんど、行田窯、Vert Café、イサミスクール工場、笠原家住宅、小川源右衛門蔵、今津蔵、新町ほっとステーション、翠玉堂、十万石本店、もりばん蔵、保泉蔵

参加者■井手幸人、上野朋子、内木涼太、梶川義実、片見辰徳、木下芳郎、栗原徹、桑田仁、徐華、白江龍三、鈴木将典、高橋謙、椿真吾、伴美樹、藤井正男、＊古里実、森川肇、宗政由桐、八代克彦、和田奈樹、ほか（＊コーディネーター）

案内■朽木宏　氏（ＮＰＯぎょうだ足袋蔵ネットワーク）

[参加者の意見・評価]
（評価の計算：非常に良いA=5点、良いＢ=3点、普通Ｃ=1点、良くないＤ=1点とした平均値）

１　行田中心街全体について（<u>まちの評価</u>）
評価点ＡＡＡＢＢＢＢＢＢＢＢＢＢＢＢＣＤ＝３．１

Ａ：足袋の生産で栄えていた時期に建設された足袋蔵が比較的コンパクトに集積しており歩きやすい。また、代表的な蔵にはデザインされたサインが掲示されており分かりやすい。
Ａ：行田は何回か訪れているが、今回のまち歩きで「行田のいいところ」がハッキリわかった。しかも以前訪れた時よりセンスが良くなっているのでびっくりした。
Ａ：町の人々が親切で、高い建物が多くなく穏やかな印象。
Ｂ：毎年、少しずつ蔵が活かされていくことでまちの表情が豊になってきている。

Ｂ：昔ながらの蔵や歴史的な建築物が残っていて、よい雰囲気であった。
Ｂ：地元の方々が取組んできた成果が、表れ始めている時期のように思えました。建物のオーナーの意向や建物を活用する側の意向を整えつつ、様々なタイプの活用事例が生まれ、またその改修等のクオリティも、おそらく理解が進んできたことで高くなってきているように感じました。
Ｂ：蔵など歴史を伝える建物が随所に残り、再活用も進んでいる。
Ｂ：こうしたイベントを続けていくことが新たなまちの魅力をつくっていっているんだと実感。
Ｂ：足袋蔵や忍城など様々なまちづくり資源があり、徐々に活用が進んできているが、まだ街の魅力を最大限に発揮するまでは至っていない。
Ｂ：何度も訪問しているので、いろいろな資源が残っていることを知っているが、市民が利活用する状況が少ないのかもしれない。街中を歩く市民がほとんどいなかった。
Ｂ：今回の「足袋蔵まちめぐりで訪問した場所はA評価」ですが、行田市駅周辺は日曜日のせいでしょうか、あまりにも寂しい状況です。ほとんどの店が閉まっていてコーヒー等を飲める場所も無く、時間を潰すのに困りました。
Ｂ：朽木先生の解説で街の成り立ちや現状がとてもよく分かったが、平常時はまだ活性化などの課題が多くあると感じた。
Ｂ：行田の街がどのようにして現在に至っているのかを朽木さんの説明があったため、理解が深まることができた。
Ｂ：交通弱者（車がない）にとっては移動が困難である.
Ｂ：歴史的な建築物が残っていて、説明を聞きながらの見学は良い経験となった。
Ｃ：足袋という特産品を持ち、足袋蔵という資源をもつ歴史があり、歩きやすいサイズの街と思います。楽しく暮らすための美味しそうなパン屋さん、感じのいいカフェ等があるものの、「この街で暮らす」という視点で見たとき、日々の買回り品が徒歩圏で入手できるのか、夕方には歩いている人が少なく（ほとんどいない？）夜間の帰宅時は不安ではないか等を感じました。
Ｄ：天気の良い日曜日に関わらず街に賑わいが感じられなかった(イベント参加者ではなく地域住民の)。行田市駅周辺も空き店舗が多く、通りに人の集まれる場所が無い。商店街も活発な感じが無い。
今回のような企画がさらに展開して、蔵が、住人が自分の街に誇りを持つことのできるアイコンとして活用されていくと面白そうだと感じた。

２　ぎょうだ足袋蔵めぐり2019に参加して（イベントの評価）

評価点ＡＡＡＡＡＡＡＡＡＡＢＢＢＢＢＢＢ＝４．２

Ａ：スタンプラリーによって様々な足袋蔵を見ることができ、各々の蔵も工夫を凝らした見せ方をしている。足袋蔵だけでなく各々の商店も含めたスタンプラリーとするのも面白いのでは。
Ａ：地元市民と思われる家族連れも多く参加していた。地域の資産を知るいい機会になるのではないか。
Ａ：新たな広がりがあり、経験に基づく蓄積が活かされている。
Ａ：続けられているこが素晴らしい。年々、地域の方のファンが増えているように感じられる。
Ａ：２回目の参加ですが、数年前に参加した時に比べ、着実にレベルアップしていると感じました。各蔵の整備も進み、イベントとしても洗練されてきていると思います。
Ａ：それぞれの足袋蔵が特徴を生かして展示などを行っており楽しかった。また、解説などを行ってく

だざった地域の方々のホスピタリティを強く感じることができた。
Ａ：足袋蔵が市内に点在しており，徒歩で回ることで街全体を知ることができる（23蔵すべて回りました）.
Ａ：外部の人を呼び込むためだけではなく、地域の人々同士が交流や協力し、行田市のコミュニティの活性化になっていると感じた。
Ａ：朽木先生の説明により、行田市の魅力を味わえた。
Ａ：スタンプラリー（蔵めぐり）の対象となる開かれた蔵も増え、内容も充実してきている。しかし、蔵をめぐる参加者が少ないのがなんとももったいないと感じてしまう。
Ｂ：親子やおじさんおばさんグループなどで参加し楽しんでいる姿が多く見られた。蔵に常駐してくださっている方達の説明も熱心で大変楽しかった。
Ｂ：マップはよくできていて一人でも楽しく歩けた。ただイベントとしては活気が足りない。
Ｂ：多くの足袋蔵を見学でき、それぞれが個性的でとても楽しかったです。ただ、中心部以外はイベントをしているにぎやかさ、わくわく感等が少々不足していたようなので、開放している蔵や協賛店の入り口にわかりやすい旗等を置くとイベントのわくわく感が増すと思います。また、近づいているのに入口が見つけられない蔵があったため、次回はマップにどの道から入るかの△印があるとうれしいです。
Ｂ：マップが見やすく、スタンプ帳の建物の絵も柔らかいタッチで、見学したくなりました。ただ、一つ、建物によってはビューポイントを地図上に明記しないとわかりにくいところがありました。改善に期待したいと思います。

Ｂ：これまで行田の街について知る機会がなかったため、今回参加させていただいて、実際に朽木さんの説明を聞きながら、街を歩くことでより理解が深まった。
Ｂ：朽木先生の解説がとてもよかったが、解説無しでは街の魅力を十分味わうのが難しいと感じた。
Ｂ：朽木さんの話は、とても興味深かった。

３　特に印象に残った場所は？（※いくつでも可）

〇忠次郎蔵：昔は足袋蔵として活躍していたが、今現在は蕎麦屋として活躍している。

〇牧禎舎：居心地の良いカフェや藍染体験ができるコーナーなど、賑わいが感じられた。
〇藍染体験の店：創業支援の仕組みが整備されている
〇牧禎舎、忠次郎蔵、奥貫蔵跡(朽木さん事務所ほか)、あんど：いずれも再活用がされ、その用途も地元の方の活動が主体で、訪れて楽しい！ところでした。
〇足袋とくらしの博物館：足袋の工房をそのままに再現しており、ﾀｲﾑｽﾘｯﾌﾟしたかのよう。ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに支えられているというお話にも、地域の力を感じた。
〇足袋とくらしの博物館：実際に足袋を作っているところを見学することが出来た。

〇足袋とくらしの博物館：実際に足袋をつくっているところが見られて勉強になった。
〇「着物の仕立て屋」：とても良く改修されていた。大変立派な欅の見世梁や、美しい建具など見どころが多い。近年の改修・活用であり、着々と資源を生かしていることが印象に残った。
〇足袋蔵ギャラリー「門」・パン工房KURA：朽木先生に事務所内も含め、ご案内いただきました。
建物の特性を活かし、改修・整備され、使われており、にぎわいがある場となっていることがとてもよかったです。

〇足袋蔵ｷﾞｬﾗﾘｰ門、ﾊﾟﾝ工房KURA：蔵の群建築として、変化に富んだ空間構成になっているのと、設計事務所も含めそれぞれの活用に手作り感と質の高さが感じられた。
〇パン工房ＫＵＲＡ：足袋蔵をうまく再活用されていると感じた。
〇Cafe閑居：奥貫初代行田市長の居宅を活用したカフェがとても良かった。
〇大澤蔵：大澤さんの説明が非常に詳しく，歴史がよく分かる.

〇あんど：空間構成も、味も、お酒も良い。人に薦めたい。
〇あんど：蔵の床を半分抜いた吹き抜け空間が良く、また食事も良かった。
〇あんど：蔵を活かした室の高い空間のこんな店が私の地元にもあればと思った。居心地が良い。
〇あんど：ﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝのｸｵﾘﾃｨが高く、快適だった。吹抜けと中二階といった使い方も蔵のｽｹｰﾙを活かした使い方で、また店のｺﾝｾﾌﾟﾄもﾏｯﾁしており秀逸。
〇あんどの建物：蔵の天井の高さが有効活用され、魅力的な空間となっていた。

〇行田窯：「旧足袋蔵倉庫、さし上げます！？」のチラシはインパクトがある。うまく活用されることを期待します。
〇行田窯：状態をみると厳しそうだが、古い建築物の活かし方のとして興味深い。うまく行くことを願います。
〇行田窯：取り壊し予定のこの蔵を差し上げるとの提案。是非活用される方が現れることを期待する。少なくとも建築資材としての活用、まちの記憶の継承ができるのでは。
〇旧行田窯：取り壊しか存続か、この建物をこの後は、新しい蔵の活用の新しい手法が見出されるのでは。その後の話を聞きたい。

〇Vert Café：忍町信用組合店舗が公園内でカフェとして美しく再生されている。ランチのゼリーフライピタサンドは、とても美味しかった。
〇Vert Café ：公園の中に移築し、景観とマッチしている。
〇Vert Café：２階席から水城公園を見ていると心が落ち着きます。提供される食事も適正価格で満足度が高いです。SNSやテレビ等で上手く取り上げられると、ブレイクするかもしれませんね。
〇 Vert Café ：建物が美しく改修されて活用されていたことに加え、特に2階からの眺めが爽快で印象に残った。近年の改修・活用であり、着々と資源を生かしていることが印象に残った。

〇Vert Café：座席の間隔にゆとりを持ち、授乳室を設けるなど、小さい子連れをターゲットにしていて若い世代を街に引きつけようという意図が感じられ良かった。建物前にもテラス席を設けるなどして、他の層への敷居が下がるとなお良いと感じた。
〇Vert Café：旧忍町信用組合店舗の老朽化した状況を知っているだけに、カフェとして再生活用されていることがうれしい。公園への移転はロケーションとして良いと思うが、従前の旧市街地で再生活用されたらどんなに良いだろうと思ってしまった。
〇城址公園：素晴らしかった。公園と呼ぶにふさわしい規模と豊かな自然環境で、多くの利用者が見られた。

〇イサミスクール工場：「陸王」のTVで見た景色が、いきなり目に飛び込んできたのが良かった。
〇翠玉堂：盛業中でなにより。あのような店が何軒か街中にあると、人を集められると思う。
〇もりばん蔵：丁寧な説明から所有者の建物への熱い思いが伝わってきた。前の道路が昔は川であったことを現場の地形から説明いただき良く理解できた。

４　リレートーク「地域をめぐる「たび」から行田へ」について
評価点ＡＡＡＡＡＢＢＢＣＣＣＣ－＝３．２

Ａ：街に対し、考え、語る「キーパーソン」がたくさんいる「行田」はこれから良い方向に変わるポテンシャルを持っていると感じました。
Ａ：様々な観点からの面白い議論だったと思う。市役所の人にも参加してもらいたかった。
Ａ：これまでのご苦労や課題を知ることができた。ものづくり大学の貢献も大きいことが分かった。お金が回る何かを街中に埋め込まないと、街も建物も維持できないと感じた。
Ａ：興味深く聞かせていただきました。しかし「街を活性化する」のは難しいことだと、改めて認識いたしました。
Ａ：様々な立場の行田市に関わる方々のお話を聞けて勉強になった。
Ｂ：行田の街がもつ課題と魅力、これまでのﾌﾟﾛｾｽが、地元、行政、来街者の視点からﾌﾟﾚｾﾞﾝ・議論され、状況が良くわかるｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑでした。
Ｂ：それぞれのパネラーから興味深いお話を聞くことができた点は良かった。近年に活用を開始した、歴史的な建物の所有者の方からお話を伺うことができるとなおよかった。
Ｂ：歴史的建造物を活用してまちを活性化させていくことが行田で少しずつ進んでいることが確認できた。国土交通省もいろいろな支援制度を用意しているが東京から50ｋｍ圏の小さな地方都市で特効薬的に使える制度があるわけではない。地元大学とも連携し、まちに誇りをもつ市民が一歩一歩まちの魅力を高めていくことだと理解しました。
Ｃ：行田にかかる知識が乏しかったもので、そもそもの行田のまちのことをもう少し知りたかった。
Ｃ：それぞれの話は面白かったが、共通のテーマをもっと明確にした方がよいと感じた。
Ｃ：それぞれのお話は興味深かったが、共通点を持つべきだろうと感じた。
Ｃ：国土交通省の方のお話を聞く機会はあまりないのでとても貴重であったが、トークのテーマをより明確にしたリレートークが良いと感じた。
ー：朽木さん、ぎょうだ足袋蔵ネットワーク等の活動が新しい、新しいまちの誇りをつくって行っているのだということがよくわかった。

５　今後の行田のまちづくりや蔵めぐりまちあるき、建物の活用方法について、あなたの提案やアイデアをご記入ください。

〇　①「足袋」の街をＰＲする：「陸王」で開発した足袋シーズを貸出し、公園の周りをランニングしてもらう。どこかのマラソン大会に、足袋シューズで大量に参加し、ＰＲする。
②蔵を一定期間貸出し、週末レストランにする。：週６日営業は厳しいが、金～日で何とかなるビジネスモデルを実験する。
③吹上駅が行田のゲート であることをもっとＰＲする。：行田にどうやって行けばよいのか、わかりにくい。
④「のぼうの城」「陸王」をもっと生かす。：佐原は日帰りロケができるので、最近はＣＭでも多く使われている。活かし方があると思う。

○「蔵めぐりまちあるき」のイベントの時に、歩くためのストーリーや仕組みが追加できると良いと感じました。（ちょっと極端ですが、）例えば、リアル謎解きゲームのような街を歩きつつゲームを行うイベント学生の協力等で行うことができると楽しいのではと思いました。

・参考：謎解きタウン　リアル謎解きゲーム　https://www.nazotown.jp/

　　　全国のリアル謎解きイベント　https://www.walkerplus.com/search/mystery/

○行田の街は、観光客をたくさん呼ぶことを目指すのではなく、地元の方々が街に愛着と誇りを持ち、少しずつでも街を良くするという意識を持つことと、リピートしてくれるコアなファンをつくることが重要だと思う。

○まちなかの、取り壊される蔵の跡地や、その後に建設される建物の提案を、大学、NPO の方々が中心となって推進されてはどうでしょうか。

○以前訪れた地方都市で木賃ｱﾊﾟｰﾄをﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝしたｶﾌｪに立ち寄った際、天候が悪かったにも関わらず、そこが地元の若者の憩いの場となっているのに驚きました。この週末はあそこで時間を過ごそうかと思ってもらえるような内容が増えると、近くのまちからも人を呼べるようになるのではないかと思います。

○蔵の再活用、蔵めぐりといろいろ取り組んでいらっしゃいますよね…。となると、中心部での楽しく歩けるネットワークづくりとか、さきたま古墳群・忍城跡など広域的な資源との連携とか、でしょうか。

○行田市駅周辺の商店にもう少し頑張ってもらい（休日でも開けてもらう）、「蔵めぐりまちあるき」はかなり整備された蔵数もあるので、忍城や古墳公園、古代蓮などと併せて、SNS やテレビ等で上手く取り上げてもらえば、訪問客も増え、建物を活用しようとする人も集まるのではないでしょうか。

○街は住む人が誇りを持っている場所ほど良い場所だと感じる。街に点在する蔵がそのためのアイコンになること。保存といっても、モノは使わなければ駄目になってしまう。必要ならば電気や水道など設備機能を導入し補修・改修を行うこと、利活用していくことで保存になる。また蔵には(全てとは限らないが)商業的機能を付加し売り上げの一部で蔵の手入れ(設備整備・補修 etc.)をするなどの循環が生まれると経済的にも街に組み込まれていけると思う。

○街に住む人が豊な日常を感じられるようにすること。そのため、蔵の活用は、イベントに限らず、地元の方が日常に利用する用途を目指すということだと思います。既に飲食店やパン屋さんなどで実績を積みかさね人材育成もされていますから、これを広げていくこと。釈迦に説法になりました。

○小さな子供達にも積極的に歴史に触れてもらうため、児童館や保育施設として活用する。

○商工会ベースで進めるのはクローズになりがちなので、転入してきた若手アーティストをベースに発信してみてはどうか。

○所有者の方やまちづくり団体の方が足袋蔵を開いていない状態でも、その蔵を訪れた人が楽しめる工夫があると面白いかと思った。例えば、蔵で掲示してある QR コードを読み取ると、所有者の方が蔵の思い出を語ったり、内部を紹介するビデオが流れるなど。オーラルヒストリーの蓄積を行うと面白いのではないだろうか。また、路地の魅力をさらに積極的に発信できると面白い（スタンプラリーの際、通ってもらいたい路地にスタンプを置くなど）。

○美術館のように、見どころなどの解説を音声にしてスマホで聞けるようにする。

○年に一度の足袋蔵見学だけでなく，賃貸に出す，アーティストに開放するなど連続的な使用が重要であると考えます．

○蔵めぐりまちあるきの際、着物のレンタルがあればさらに活気あふれるものになると思った。
○朽木さんのお話はとても興味深かったが、聞こえづらかった場面もあったので工夫が必要だと感じた。
○蔵めぐりの際の朽木さんの説明が聞き取れない部分があったため、説明がよく聞こえるような工夫が必要なのではないかと感じた。

６　その他、今回の企画に参加しての感想など

○「あんど」の空間、お料理ともとても素敵でした。また、お伺いしたいです。素敵なお店があることが街を再訪する起爆剤となると思います（U．T）。
○「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき」は 15 回も続いているということが素晴らしい。そして来るたびに新しい発見があるので、また来たくなります。地元の方々で楽しみながら、これからも長く続けてください（K．T）。
○蔵のまちとして認知された行田、次なる課題の一つは蔵を維持することができなくなった方々のサポートかなと、今回参加して感じました（I．Y）。
○蔵めぐりでは、朽木さんから詳しいお話を伺うことができ、ﾘﾚｰﾄｰｸではこれまでの取組みの紹介に併せ課題が浮き彫りになり、とても充実した１日でした。印象に残ったのは、朽木さんの説明の端々に現れるまちづくりに対する真摯な向き合い方でした。また訪問したいと思います！（F．M）。
○朽木さんを中心に地域の活性化に取り組んでいる方々の努力に感服しました、頑張ってください（T．K）。
○初めての行田訪問でしたが、蔵が随所に残り、かつ、地域の特性を活かす形で再活用されていて、いいですね～。蔵めぐりマップには昔の水路も記入され、興味をそそられました。さきたま古墳群、忍城跡などといった全国的？資源もあり、地元の皆さん、もっと誇りに感じてください！　㈶（T．S）
○行田のまち歩きは「定点観測」としての楽しみがある。また参加したい。（M．H）
○3 月の平日にも訪問したが、その際も多くの人が訪れており、着実に活動の成果が上がっていると感じる（K．H）。
○今回の内容であれば１日にまとめた方がよかったと思う。作成した展示物に対する意見交換などの時間がなく、もったいないと思った（K．Y）。
○情報として知っていた足袋蔵を実際に体験できて非常に有意義でした．大小様々な蔵の歴史を知ることができ，大変感謝しております．維持管理だけでも大変だとは思いますが，「活用」にも目を向けていただければ，さらに行田市に注目が集まるのではないかと思います（M．Y）．
○初めて行田市に行ったが、お話を聞きながらの見学を通して少しだけ興味を持てた（U．R）。
○蔵めぐりで回ることができなかった建物もまた機会があれば、ぜひ見て回りたいと思った（K．T）。
○行田市についてあまり知らなかったが今回の企画を経て、行田市の蔵や歴史的な建築物に対し興味がわいた（W．N）。
○地域の人々がそれぞれに思う行田市の魅力を嬉しそうに語ってくれたことが印象的だった。行田市の歴史、名産を地域の人々が PR することによって、地域の人々自身も地元愛と行田を活性化させようという熱意が大きくなっていると感じた。普段使われていない他の蔵もどんどんリノベーションし、より地域の活性化になったら良いなと考えた（B．M）。

■コーディネーターより
TEKU-TEKU としてのぎょうだのまちあるき企画は７回目となります。これまでも、そのたびごとに蔵や建物の新たな活用事例を見せていただき、一歩一歩確実に行田のまちの魅力が高まっていることを実感してきました。今回の参加者の意見・評価をみても、その期待を裏切らないまちあるきになりました。ご案内いただいた朽木さんに感謝です。次回も楽しみです（古里実）。